

美馬市立 木屋平小学校  
「学力向上実行プラン」

研究テーマ

- 基礎的基本的な学力の定着を図り、自主的主体的に学習に取り組む児童を育成する。
- 学ぶ喜びや学ぶ楽しさを感じる「こやだいラーニング」の確立(少人数学級指導)

学力向上検討委員会構成

- 学力向上推進員 小野寺靖志
- 委員 校長 総括 増井 進  
 教頭 総括補佐 三橋孝史  
 教務・研修・人権主任 阿部幸美  
 養護助教諭 平谷美実

校長

増井 進

(1)基礎的・基本的な知識・技能の習得

児童生徒の状況	具体的目標(目指す子供の姿)	成果指標	中間期の見直し	取組状況	達成状況
よさ 計算の基礎学力は定着している。既習内容のプリントや体験学習をすることで、知識の定着も図りつつある。	①漢字・計算等の基礎的基本的な知識技能を確実に身につけ、生活に活用することができる。 ②文章を読み、内容を正確に読み取ることができる。	①、②単元末テストで全員が七割以上の正答を達成できるようにする。	具体的方策①を「朝のチャレンジタイム」等を活用し、一人一人に応じた漢字、計プリントや、話す・聞く練習を継続的に行わせる。」に変更する。	①チャレンジタイムや授業などで計画的・継続的に学習をすすめることができた。 ②読んだ本を読書カードに記入させ、定期的に確認したり、家庭でも読書することをすすめたりした。	①国語・算数の単元末テストでは全員がほぼ毎回、七割以上の正答を達成できた。 ②国語の単元末テストの長文問題では、全員がほぼ毎回七割以上の正答を達成できた。
課題 漢字の書き取りや活用に課題がある。読解力、文章を書く力も十分でない。	①朝のチャレンジタイムを活用し、一人一人に応じた漢字、計算・文章問題等のプリントを継続的に行わせる。 ②読書カードを用いて、読書の量や質を高める。	①朝のチャレンジタイムで漢字・計算・読解力等の復習を週3回実施する。 ②毎週読書カードを点検し、助言する。		評価 B	次年度における改善事項 ①学習した漢字を日記や作文で積極的に使うようにさせたり、国語辞典を自主的に活用したりできるようにする。算数は定期的に復習を行い、学習内容の定着を図る。 ②好みの本に偏らず、多様な分野の本を読書させる。

(2)知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況	具体的目標(目指す子供の姿)	成果指標	中間期の見直し	取組状況	達成状況
よさ 全校児童の前で発表する機会が多く、相手を意識して話すようになってきた。あいさつやお礼の言葉を手紙に書き、伝えることができる。	①自分の考えを筋道を立てて、分かりやすく話したり、文章を書いたりすることができる。 ②図や表などを活用したりしながら、自分の考えや意見を説明することができる。	①作文や発表を3段階で評価し、全員が2以上の評定が得られるようにする。 ②自分の意見を、理由とともに言える児童が70パーセント以上になるようにする。	具体的方策③を「自分が考えたことを、図や表、式を示したりしながら説明させる。」を加える。	①体験活動後は、相手に気持ちが伝わるように必お礼の手紙を書かせたり、感想文を書かせたりした。 ②集会活動等で自分の思いや考えを発表させた。 ③各教科等で調べたことを整理してまとめさせたり、自分の考えを図や表を利用しながら説明させたりした。	①作文や発表は、ほとんどの児童が3段階評価で2の評定が得られた。 ②どの児童も理由とともに意見を言うことができたが、図や表を用いて分かりやすく説明することは十分とはいえなかった。
課題 自分の思いや考えを、筋道を立てて分かりやすく話すことや、丁寧な言葉を使うこと等に課題がある。	①各教科、特別活動等で自分の意見を発表する場面を意図的に設定する。 ②調べ活動などを行い、内容をまとめたり、検討したり、発表したりする活動を増やす。	①全校集会で児童が意見を発表できる場を毎月1回以上設定する。行事の感想、新聞などを掲示し多様な表現にふれさせる。 ②自分の考えを筋道立てて発表する場を週1回以上とする。		評価 B	次年度における改善事項 ①本校以外の児童の優秀な作文や、新聞記事等を授業中に紹介したり掲示したりして、文章の書き方や意見の述べ方等を学ぶ時間を増やす。 ②算数では具体物を操作させる活動を増やしたり、図や表を書きしっかりとイメージもたせて文章問題を解くようにさせる。 ③話し合い活動を増やし、共同的に学習をすすめる場面を増やす。

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況	具体的目標(目指す子供の姿)	成果指標	中間期の見直し	取組状況	達成状況
よさ 学習に対する興味・関心が高く、すすんで学習に取り組むことができる。	①課題や自主学習に積極的に取り組み、学ぶ楽しさや喜びを感じる事ができ、自信をもつことができる。 ②学んだことを生活に生かしたり、さらに詳しく調べようとしてすることができる。	①学習アンケートを行い、意欲的によくがんばったと答える児童が80%以上にする。 ②アンケートを行い、宿題などの確認を自分でしたと答える児童が80%以上にする。	具体的方策①を「自主学習のやり方やモデルを示し、予習・復習を促したり、ふり返りカードで自己評価をさせたりする。」に変更する。	①ふり返りカードを活用し、自己評価させたり、次時に対する興味を持たせたりした。 ②自主学習ノートを活用し、主体的に学習するように促したり、興味関心のあることを深く調べさせたりした。	①アンケートで、80パーセント以上の児童が意欲的に学習に取り組んだと答えた。 ②アンケートで、80パーセント以上の児童が授業の準備や宿題などの確認を自分でできていると答えた。
課題 学んだことを積極的に活用しようとして、さらに詳しく調べようとする意欲が十分でない。	①自主勉強ノートを活用させたり、ふり返りカードで自己評価させたりする。 ②学年に応じた家庭学習の仕方の共通理解を図り、児童や家庭に知らせる。 ③地域の良さを感じ、理解を深める体験活動を行う。	①意欲的に学習できたことなどを、帰りの会などで紹介し、賞賛する。 ②家庭学習の手引きや学校通信を使って保護者の理解や協力を得る。		評価 A	次年度における改善事項 ①パソコンやタブレット等のICTをさらに効果的に活用する。 ②一人一人の学習状況に応じた指導や支援をさらに充実させる。 ③学んだことを積極的に生活の中で活用したり、生かしたりさせる。

平成29年度 学力向上ロードマップ



